

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域、Biosphere Reserves：BR）

ユネスコエコパークは、生物多様性の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的とする取組である。また、ユネスコエコパークは、ESD（持続発展教育）の学習の場でもある。

【綾BR（宮崎県綾町、平成 24 年登録）】

綾町では、5者（林野庁九州森林管理局、宮崎県、綾町、公益財団法人日本自然保護協会、てるはの森の会）が協働して、原始的な森林生態系の保護、照葉樹自然林の復元、自然と共生する地域づくり等を目的とする「綾の照葉樹林プロジェクト」を推進してきた。その取組を基に、ユネスコエコパークへの申請をし、平成 24 年 7 月に登録が承認された。登録後は、各種マスメディアからの取材が増えるとともに、他の地方自治体（職員、議員等）の視察、海外からの問い合わせが増え、綾町のビジビリティは挙がっていると地元は捉えている。また、地元では自分たちの取組が、ユネスコという国際機関からの評価を受けたということで、取組に対して自信と誇りを持つとともに、自然保護関係者だけでなく、町全体で、ユネスコエコパークの活動に取り組んでいます。また、農業体験学習や森林セラピーをはじめ、自然保護や持続可能な資源の利活用に関する普及啓発、さらには、持続可能な地球社会の構築のための人材育成としてのユネスコエコパークの活動は ESD の推進にもつながっている。

【只見町（福島県只見町、新規申請に向けて検討中）】

只見町では、ブナの自然を保全する取組が行われてきている。現在、第 6 次只見町振興計画にある町づくりの理念「ブナと生きるまち・雪と暮らすまち（奥会津只見の挑戦・真の地域価値観の創造）」を具体的に実現するための事業の一環として、また、豪雨災害や原発事故の風評被害等からの復興の一環として、ユネスコエコパークへの登録に向けての検討会、申請書の準備を進めている。